

## 実質化された人・農地プラン

〔 注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。 〕

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
新発田市	下楠川地区 (下楠川集落)	R3.7	

## 1 対象地区の現状(ha)

①地区内の耕地面積	62.88
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	42.29
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	3.82
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2.68
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.14
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

現状の農地では作業効率が悪いと、早期の圃場整備が必要なこと。また、地域内での後継者が不足すること。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地元農業者を構成員とする1法人のほかに、他集落からの2法人、地元個人農家により耕作しており、連携が図られている。個人農家もいずれは地元法人への貸付を予定しており、今後は法人中心に農地の集積・集約を図ることとしている。加えて、下楠川集落だけでなく竹俣地区ひいては川東地区全体でのプランへと拡大し、法人間連携していきたい。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の貸付け等の意向 高齢から集落内個人農業者も近い将来には貸付け予定であり、集落内1法人を予定している。
農地中間管理機構の活用方針 基本的には農地中間管理機構を活用する。
基盤整備への取組方針 現状の農地では作業効率が悪いいため、早期の圃場整備を期待する。
新規・特産化作物の導入方針 集落内1法人では農福連携によるタマネギ、ブロッコリー等の園芸導入に取り組んでいる。

(参考) 農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

農地の所在(地番)	貸付け等の区分(m <sup>2</sup> )		
	貸付け	作業委託	売渡
特になし			
計			

注:農業委員・農地利用最適化推進委員が農地の貸付け等の意向を確認した面積を農地利用最適化交付金の成果実績払いの対象とする場合には、人・農地プランにおいて地番、面積を記載することが必要です。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。